The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	フィリピン語学習用オンラインコンテンツの概観 ： オンライン辞書、e ラーニング教材、電子書籍サイトに着目して
Author(s)	矢元, 貴美
Citation	外国語教育のフロンティア. 2022, 5, p. 203-216
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87578
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

フィリピン語学習用オンラインコンテンツの概観
―オンライン辞書、eラーニング教材、電子書籍サイトに着目して―

An Overview of Online Contents for Filipino Language Learning:
Focused on Online Dictionaries, e-learning Materials and e-book Contents

矢元　貴美

Abstract

This article aims to survey free online contents used for Filipino language learning to be able to give an overview on what are provided in each of them. As printed materials that are explained in Japanese are limited, these online contents are of great value for both teachers and learners involved in Filipino language education in Japan. This article examines four online dictionaries, five e-learning materials and three e-book contents. The contents are analyzed from the point of view of what learners are able to study by using these contents in accordance with framework that is appropriate for textbook analysis. If learners are able to utilize them in an effective way, they may also be able to learn Philippine history, social issues, values and so on in addition to the language elements like correct pronunciation, vocabulary, expressions, structures of sentences and writing styles. On the other hand, there are also some issues noted which are as follows: 1) As some contents have limited information, it is necessary to make up for this limitation by, for example, using them in combination with other contents or printed materials and dictionaries. 2) It is seen important for learners to be aware of the system of the contents or for teachers to guide learners appropriately because it may be difficult for learners to overview the contents as a whole unlike in the case of printed materials. 3) Improving the contents for Japanese speakers is also necessary.

キーワード：フィリピン語、オンラインコンテンツ、eラーニング、言語学習
Keywords: Filipino, Online Contents, e-learning, Language Learning

1. 本稿の背景と目的

日本におけるフィリピン語教育では、学習者と教授者の双方にとって教材の選択肢が少ない。その原因の1つは、日本語話者向けに作成された、つまり、日本語で説明されている印刷教材が限られていることである。大阪大学外国語学部フィリピン語専攻の授業においても、また、フィリピンにルーツを持つ子どもたちの母語・継承語教育においても、教授者が様々なコンテンツから適切なものを探し、手作りの教材を作成することが多い。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、フィリピンへ渡航することが叶わず、学習者が直接現地でフィリピン語を学習することや、現地の人々とコミュニケーションを図ることはできなくなった。日本国内でも、接触の機会を減らす必要があるといった理由から、在日フィリピン人の活動やイベントも減少し、フィリピン語を用いて交流する機会を得ることも難しくなった。このような状況はしばらく続くと考えられる。

ウェブ上にはフィリピン語（またはタガログ語）学習に活用できるコンテンツも数多く存在し、無料で利用できるものもある。そのようなコンテンツを利用することは、教材の選択肢を増やすことや、教授者が教材を作成することにも役立ち、印刷教材では効果的な学習が難しい「聞く」技能と「話す」技能の指導・習得にもつながると考えられる。フィリピンに赴いて資料を調達することや、対面でコミュニケーションを取ることが難しい状況においても利用価値が高い。

フィリピン語学習に利用できるコンテンツの多くは、英語話者、もしくは英語を理解できる利用者向けに作成されている。印刷教材と同様、日本語で説明されているものはごくわずかである[1)]。フィリピンでは英語が公用語であることや、フィリピン系移民が多い国には国語や公用語として英語が用いられている国が多いことが影響していると考えられる。日本語話者の学習者、特に中級[2)]程度までの学習者がそれらのコンテンツにアクセスし利用するには多少の困難を伴う。

そこで本稿では、ウェブ上に無料で提供されている英語話者向けのコンテンツを調査し、各コンテンツで取り扱われている内容を概観する。学習者や教授者が必要とするものを選択する際の一助とし、今後の教材研究につなげたい。

2. 分析の視点

外国語教育における教材研究は、主に教科書として作成された教材を対象として行われている。教科書の場合、学習目的、レベル、対象者、学習時間、学習項目の量と配列、全体構成や各課の構成、練習問題の形式や内容、シラバス、教授法、自習用か教師が使用するか、使用言語、付属教材、価格・体裁・イラストなどの視点で分析する（中村・長谷川 1995: 168-172, 深澤・本田　2019: 73）ことが一般的である。教材分析において重要なのは、用いられている教授法、採用されているシラバス、想定されている教室活動（中村・長谷川　1995: 168）を把握することであるとされる。

河住（2016）では、日本語教材に関わる要素を、教材に示されている明示化されているものと、教材の背景にあるものや教材を使用する現場に暗黙の共有事項として期待される明示化されていないものに分類し、明示化されているものとして、教材の基本情報、教材の構成、学習項目の提示方法（文字情報、音声・映像等）、学習項目（言語要素、言語技能、言語運用）を、明示化されていないものとして、社会背景、教育の目的と方法、教育内容

を挙げている（河住　2016: 50-51）。そして「教材研究の多くは、『明示化されているもの』の分析を通して『明示化されていないもの』を推し量る、もしくは『明示化されていないもの』が『明示化されているもの』によって十分に具現化されているかどうかを検証することを目的としている（河住　2016: 52）」という。

本稿で対象とするコンテンツは授業で用いる教科書として作成されたものではないため、教科書の分析で用いられる項目の中には該当しないものもあり、コンテンツの種類によって該当する項目が異なる。そこで本稿では、教科書分析の視点を踏まえつつ、その教材で学習者が何を学べるかという視点で分析する。その際eラーニング教材に関しては、河住（2016: 51）で提示されている言語要素（文法･語彙･表記･音声･文体）、言語技能（読む・聞く・書く・話す）、言語運用（コミュニケーション・文化理解）にも着目する。

3. 調査対象

ウェブ上で利用できるコンテンツとしては、オンライン辞書、eラーニング教材、フィリピンの民話・童話・文学作品等が掲載されている電子書籍サイト、映画やドキュメンタリーやニュース番組等の映像資料[3)]、童謡やフィリピン人アーティストによる楽曲（Original Pinoy Music, OPM）[4)]、ラジオ番組[5)]、ニュース報道[6)]が存在する。博物館の所蔵品や演劇を鑑賞できるサイト[7)]もある。幅広い分野のコンテンツが存在し、学習者の興味関心や学習目的によって使い分けることができるが、本稿では、長期間継続して利用することができるコンテンツとして、オンライン辞書、eラーニング教材、電子書籍サイトを取り扱う。

オンライン辞書は4点を調査した。収録語数が豊富であること、対訳のみでなく、同義語や例文他、語の理解を助けるための情報が含まれていることを基準に選択した。eラーニング教材に関しては、学習項目として少なくとも初級段階の言語要素が体系的に扱われていることを基準に、5点を調査対象とした。

電子書籍サイトは民話、童話、小説等の文学作品が掲載されている3点を対象とした。文学作品は電子図書館に所蔵されているものもあり、検索して見つけることもできるが、中級程度までの学習者はタイトルから検索するよりも、一覧等の選択肢から興味を持ったものを選択する方が一般的であると考えられる。そのため、1つのサイト上で言語別または国別に分類されているもののみを選択した。

4. 調査結果

4.1 オンライン辞書

辞書には語を取り扱っているものと慣用句を取り扱っているものとがある。掲載されている品詞分類、語根、同義語や反義語、音声、例文、動詞の焦点や接辞といった、見出し

語（句）の意味以外の情報はサイトによって異なる。

(1) TAGALOG.COM

辞書の他、発音や文法の規則、聞き取りや読解練習のための素材なども提供されているサイトである。辞書の収録語数は47,381語で、例文も20,000以上掲載されている。見出し語を一覧で閲覧することはできないが、検索することが可能である。語根のほか、接辞がついた語による検索もできる。語の強勢が示されていることに加え、ネイティブ・スピーカーによる音声も収録されている。英語による意味の説明、その語の品詞分類、語根、例文とその英語訳、関連する語、語によっては他の綴り方、動詞であれば活用表と焦点と接辞も記載されている。活用表に音声が付けられているものもある。検索した語やその語が含まれる例文を保存し、独自のフラッシュカードを作成することもできる。発音を身に付ける、語彙を増やす、語の構造を理解する、読解や作文に応用するなど、各学習者が必要とすることに合わせて利用することができるコンテンツである。

(2) depinisyon.com

このサイトではフィリピン語から英語、および英語からフィリピン語を検索することができるほか、英英辞書も兼ねている。見出し語はアルファベット順でも閲覧できるが、英語とフィリピン語が混在して表示される。語根のほか、一部の語は接辞がついた形での検索も可能である。強勢は一部の語には表示されているが、発音の音声は掲載されていない。また、品詞と意味は記載されているが、例文は掲載されていない。動詞に関しては、一部の焦点動詞が接辞のついた形で紹介されている。このサイトの特徴は、類語や関連語が図で表示され、視覚的に理解できるようにされていることである。中級程度までの学習者にとっては、語同士の関連の度合いや意味の近さを判断することは難しいと思われるが、英語と関連させて調べたい場合や類語を一目で把握したい学習者には役立つと考えられる。

(3) Diksiyonaryo

語の意味がフィリピン語で説明されている辞書である。収録語数は67,743語で、フィリピン語以外のフィリピン諸語、借用語として用いられるスペイン語や英語も多数含まれている。見出し語はアルファベット順でNとOの間にÑとNGが入っている。語根のアルファベット順に閲覧することができ、検索した場合には検索した語のみではなく、それ以降の語彙も順に表示される。例文や語の発音の音声は掲載されていないが、同義語が比較的多く掲載されている。語彙の意味を知るだけでなく、フィリピン語の説明を読むことにより、簡潔な文の構造も学ぶことができる。また、同義語や借用語、他のフィリピン諸語の語彙にも触れることにより、語彙の量や質を豊かにすることにも役立つと考えられる。

(4) Leksyon: Filipino / Tagalog Idiomatic Expression

慣用句または慣用句的に用いられる語が983収録され、見出し語はアルファベット順に閲覧することができるほか、特定の慣用句を検索することも可能である。意味が英語で説明されていることに加え、例文とその英語訳、同義語（句）と反義語（句）が記載されているものも多い。音声は掲載されていないが、音節と強勢は示されている。その慣用句が名詞、形容詞、副詞、動詞のどの品詞として用いられるのかも記載されている。文章や会話に現れた慣用句の意味を理解するのに役立つことはもちろん、学習者自身が話す、または書く際の語彙や表現を豊かにすることができる。言語面の他、慣用句に現れている価値観も知ることができると考えられる。

4.2 eラーニング教材

取り扱われている言語要素、言語技能、言語運用はサイトによって異なり、一部の学習項目に限定して提供しているサイトもあれば、すべての項目を網羅しているサイトも存在する。対象としている学習者のレベルは初級から中級であることが多い。音声や動画と連携させる、複数の学習活動を組み合わせて用いる、モジュール教材を提供するなど、工夫がなされている。

(1) Learning Tagalog

発音の規則、語彙、構文、接辞等の文法規則、および表現が説明されている。発音の規則は一部音声つきで説明されている。最小限必要な例文や句が示されているが、練習問題は掲載されていない。想定されている学習者のレベルは初級から中級であると考えられる。採用されているシラバスは構造シラバスであり、発音の規則、語根と接辞、基本構文、標識辞、名詞、動詞、形容詞、その他の語句、小辞、存在詞、疑問文、その他の構文の順に配列されている。

名詞は接辞や複合名詞が取り扱われている。動詞は、接辞、焦点、相、不規則動詞、命令文、反復表現、知覚動詞、形容詞と動詞および動詞同士を組み合わせた用い方、maging動詞[8)]、擬似動詞の順に説明されている。形容詞は、接辞、複合形容詞、強意と程度緩和、重複、複数、比較の順に、動詞と形容詞の接辞は焦点や意味の順ではなくアルファベット順に並べられている。数詞、副詞、存在・位置や時を表す語句、等位接続詞以外の接続詞はその他の語句で取り扱われ、その他の構文では、否定文、等位接続詞、名詞節、倒置文、間投詞等の他、挨拶や決まり文句といった表現も説明されている。

提示されている内容が限られているため、語彙や音声、コミュニケーションのための表現を学ぶのは難しいが、語や文の構造を概観し、一通りの文法を把握することはできる。動詞や形容詞の接辞が、容易なものから難解なものという順ではなくアルファベット順で

並べられているため、特に初級の学習者は混乱する可能性があるが、接辞ごとに意味や焦点を学ぶことには役立つと考えられる。

(2) TAGALOG.COM

オンライン辞書も提供されているサイトである。このサイトの特徴は、文章による説明のほかに、音声、フラッシュカード、練習問題やクイズ、辞書、動画等と組み合わせて言語技能を伸ばせるように工夫されていることである。

言語要素や言語運用のための学習項目は、発音と綴り、日常表現、基本構文、日常よく用いられる語彙であり、構造シラバスと場面シラバスを組み合わせて作成されている。項目によって異なるが、音節区切りの選択、聞き取り、空所補充、翻訳といった練習問題が提供されており、入力する、または選択肢から選ぶと、すぐに正解かどうかを確認することができる。フラッシュカードは、名詞、代名詞、動詞、動詞の相、小辞、構文等に関して、単語カードのように表裏にそれぞれフィリピン語とその英語訳が表示され、学習者が語や構文を理解したか否かを確認できるようになっている。

また、文化理解やコミュニケーション能力向上のための題材も提供されている。OPM は歌詞を確認しながら動画で視聴でき、歌詞に使用されている語はオンライン辞書と連動して意味が表示されるようになっている。島や地方の地名もフィリピンの地図を見ながらクイズ形式で学べる。オンラインで質問できる掲示板や、登録されている教師によるオンラインレッスン、会話練習ができるビデオグループチャット、実社会における使われ方を知るためのコーパス検索といったツールも用意されている。

文法や表現の説明は一部の項目に限られているため、言語要素や言語運用といった項目で学習できるのは初級の初期段階の内容のみである。提供されている多様なツールを活用することにより、語彙や構文を定着させることや、「聞く」技能を向上させることが可能であると考えられる。

(3) Filipino Language and Culture

ハワイ大学マノア校のフィリピン語・フィリピン文化プログラムが提供しているサイトである。主な対象者は母語または継承語としてフィリピン語を学ぶ学習者であると考えられる。取り扱われている内容は、文法の説明、読解、口承物語であり、構造シラバス、場面シラバス、機能シラバスが組み合わせて用いられている。

文法項目は初級の学習者向けである。基本構文、動詞の相と焦点、小辞、接続詞等が扱われており、基本構文の中で各品詞も提示されている。動詞の焦点は行為者、対象、場所、受益者、手段が説明されており、各焦点および接辞の意味の説明や例文は少ない。

読解に関しては、過去にプログラムの授業で提供された20種類の教材が掲載されてい

る。テクストの形式は詩、歌詞、手紙、伝説、なぞなぞ、説明文、エッセー、会話文、レシピであり、各テクストでは、国歌、果物、植物、乗り物、移民、祭、症状を説明する、料理する、感謝する、断る、苦情を述べる、といったテーマが扱われている。各教材には関連する語彙が説明されており、読解教材全体に共通する文法項目の説明へのリンクも貼られている他、一部の教材では動画がダウンロードできるようになっている。

学習活動は教材によって異なるが、テクストが提示される前には、背景に関する説明とそれに関する簡単な質問が、テクストが提示された後には、テクストの内容に関する質問が選択問題または正誤問題として設定されているものもある。

口承物語はルソン島北部マウンテン・プロビンス（Mountain Province）州バルリグ（Barlig）に口承で伝わる物語（Ub-ufok Ad Fiallig）が10のモジュールで学習できるコンテンツで提供されている。アニメーションの動画でフィリピン語による朗読と英語の字幕が利用でき、朗読されるフィリピン語のテキストはPDF形式のファイルで利用できる。各モジュールには、関連する背景情報が説明されているほか、学習者が考えたり学習者同士で話し合ったりするための質問が用意されている。

文法項目の内容は限られているため、詳細や実例を学ぶことは難しいが、全体像を掴むことには役立つと考えられる。言語要素としては、文法、表記、語彙、文体を学ぶことができ、言語技能としては「読む」技能と「聞く」技能を向上させられる。読解教材では多様なテーマが取り扱われているため、歴史、社会事情、価値観等も理解でき、一部の教材ではコミュニケーションの取り方も学習できると考えられる。

(4) Tagalog: Interactive Language and Filipino Culture Resources

ノーザン・イリノイ大学東南アジア研究センターが提供しているサイトである。初級と中級の学習者を念頭に置き、「聞く」「話す」「読む」「書く」技能を高めることができるように、多数の学習活動を組み込んで作成されている。成人の学習者を対象とした内容に加え、子どもの学習者向け教材と子どもを教える教授者向けの題材も掲載されている。文法や語彙、読解や翻訳の練習用教材、フィリピンの言語や民族や社会事情に関する情報といった幅広い内容が取り扱われ、各課の扉にはフィリピンの画家による絵画や、各地方で見られる風景や人々の様子の写真やイラストが使用されている。

初級の学習者向け教材は、機能シラバスと場面シラバスを用いて作成されている表現に関するものと、構造シラバスを基準に作成されている文法に関するものが、それぞれ2つずつ提供されている。中級の学習者向け教材としては、機能シラバスと場面シラバスを用いて作成されている表現に関するもの2つのほか、読解教材と翻訳教材も提供されている。

文法に関する学習項目は、初級1では発音、名詞、標識辞、形容詞、基本構文等、初級2では動詞の焦点（行為者、対象、方向、場所、受益者、手段）と相、副詞、擬似動詞、

接続詞、小辞等が提示されている。発音の説明には音声が付けられているものもあり、項目によっては、関連する歌の歌詞も掲載されている。初級1の語彙は、連想、翻訳、文化理解、既知の題材との関連といった、様々なストラテジーで構築できるように工夫されている。

表現に関する学習項目には、初級1では挨拶する、家族や人物を紹介する、好き嫌いや希望を伝え合う、指示を出すまたは指示に従う、日時や出来事を伝える等が、初級2では所有者を伝える、依頼や指示をする、希望を伝える、過去・現在・未来の出来事や習慣的な活動について話す、存在や所有を伝える、能力や義務を伝える等が提示されている。中級1の学習項目は、会話をする、知り合う、アメリカに暮らすフィリピン人、フィリピン人とアメリカ人の習慣、服装と季節、趣味、食べ物と料理、誉める、助言する、友だちになる、中級2では、求婚と結婚、信仰、健康、生業、歴史、若者、社会問題、家族、伝統といった、場面やテーマごとに提示されている。関連する語彙や文法事項も示され、文化理解に役立つ説明や歌の歌詞が添えられているものもある。学習活動は課によって異なるが、テクストが提示される前には、背景に関する説明とそれに関する簡単な活動が、テクストが提示された後には、テクストの内容に関する読み書き練習等が設定されているものもある。

動詞は英語の対訳418個を見出しとしてアルファベット順に、語根、および、不定相を除く行為者焦点と対象焦点の各相が一覧表でまとめられているのに加え、焦点と接辞に関する説明も掲載されている。辞書、慣用句、俗語はアルファベット順に並べられ、なぞなぞは15、ことわざは13が掲載されている。辞書の収録語数は5,824で、英語訳のほか例文が示されているものもある。慣用句は118個について、フィリピン語と英語による説明がなされており、俗語は原語のみで349個が掲載されている。

読解教材はテクストの音声つきで、伝説6、寓話4、食べ物と健康に関するもの16、英雄に関するもの5、歴史に関するもの4、フィリピン人の習慣に関するもの14、詩・短編・エッセー等11が掲載されている。翻訳教材は、翻訳技術の習得、辞書やオンラインツールの使用、テクストの分析と翻訳、語彙の向上、第一言語と第二言語との間の言語的構造の比較等を目標に作成されている。中級1と2の学習項目で提示されたテクストを用いたもののほか、文学13（短編3、寓話4、詩6）、その他のテクスト（ニュース、伝記、エッセー等）31も掲載されている。翻訳教材と関連させて、地理、憲法、民族、政治、宗教、著名人、英雄、年中行事や祝日、ミンダナオに関する記事といったテーマでのモジュール教材が提供され、各モジュールの最後には問題や作文で理解を確認できるようになっている。

子ども向け教材としては、アルファベット、数、色、身体の部位、家族、形と大きさ、動物、果物、野菜、遊びに関する語彙や説明が、絵や写真と音声つきで提供されている。教授者向けのページでは、コミュニケーションに関する活動例、言語教授に役立つ情報、

授業計画、フィリピンの遊び、歌、祭、舞踊、武術、恋愛と求婚、民話、信仰、食、地理、歴史、政治、経済、ミンダナオに関する情報、英語で読める文学がモジュール教材として提供されている。

ビジネスに役立つ情報や表現も、経済、歴史、民族、祭、政治、旅行、芸術、日常表現、俗語、慣用句等が提供されている。文化理解に役立つ情報としては、歴史、芸術、料理、舞踊、神話や伝説、政治や司法、音楽、英雄、旅行、祭、ミンダナオの民族や文化、紛争に関する説明が掲載されており、教授者向けのページ等、他の教材に関連付けられているものが多い。音楽では伝統的な歌が3、恋愛の歌が17、宗教的な歌が6、流行歌が11、日常的に歌われるものが3、愛国歌が3、OPMが5収録され、歌によって異なるが、歌詞とともに解説、語彙一覧、音声が付けられている。

その他、ACTFLの言語運用能力ガイドライン（ACTFL Proficiency Guideline）の「話す」と「書く」、および、コースのシラバスの見本として、大学で過去に行われた授業のシラバスも掲載されている。役立つ情報として、新聞社やテレビ局、公的機関、文化やエンターテインメントの情報提供サイトや、動画サイトへのリンクも貼られている。

幅広い分野の内容が提供され、各教材で掲載されている情報も豊富である。情報量が多いことが、必要とする情報に学習者がたどり着くのを妨げる恐れがあるが、言語要素、言語技能、言語運用に含まれるすべての学習項目が利用でき、汎用性が高い。学習者が各自のレベルや向上させたい技能に合わせ、学習項目や情報を選択して活用することにより、言語運用能力をバランス良く伸ばすことが可能であると考えられる。

(5) Tagalog Language Seasite, Interactive Learning Resources for Southeast Asian Languages, Literatures and Cultures

(4)と同じセンターが提供しているサイトである。初級文法1、初級文法2、初級表現、ビジネス表現等のコースが提供されているほか、初級語彙、ビジネス用の語彙、フィリピン語の概要、憲法、民話や神話、旅行者や移住者向けの情報も掲載されている。

初級文法1と2および初級表現の内容は、(4)で提供されている文法の初級1と2および初級表現の各内容と同じである。初級語彙は、挨拶や恋愛の場面に用いるもの、時間や日付や数を尋ねる際に用いるもの、道を尋ねる際に用いるもの、疑問詞といった、場面ごとに日常生活でよく使用されるものが掲載されている。ビジネス表現等に関しては、依頼、好み、能力を伝える表現のほか、丁寧な伝え方、ビジネス上知っておくとよいフィリピンの文化やフィリピン人との付き合い方といった情報が説明されている。ビジネス語彙は、環境、政治、配送、マーケティング、保険、投資、貿易等に関連するものが対訳で記載されている。対訳がない、つまり、英語をそのまま用いるというふうに示されているものも多い。

フィリピン憲法は全文が原文で掲載されており、英語訳は付けられていない。民話や神話はタガログ、イロコ、イフガオ、イバナグ、マラナオの各民族のものが計10種類掲載されており、9つは英語のみで、1つのみフィリピン語と英語の対訳で音声も付けられている。旅行者や移住者用の情報は、旅行計画の立て方、危険情報、在マニラ・アメリカ大使館の連絡先などが記載されており、アメリカ在住者向けである。

豊富な語彙を学ぶのは難しいが、語や文の構造を概観し、一通りの初級文法を把握することはできる。ビジネス分野でフィリピン語を用いたいと考えている初級の学習者にとって最も有益であると思われる。4技能すべてを高めることができるように設計されていると説明されているが、音声や動画はほとんど収録されていないため、「聞く」と「話す」の技能を身に付けることは難しく、文化理解も限定的であると考えられる。

4.3 電子書籍のサイト

掲載されている作品の分野が比較的限定されているものと、幅広い分野の作品が掲載されているものとがある。大半の作品は、著作権に問題がない出版物、もしくは、古くから地域に伝わる作者不詳の民話や伝説であるが、一部、20世紀から21世紀に出版された作品も公開されている。

(1) International Children's Digital Library

NPO法人International Children's Digital Library Foundationによって運営されているデジタル図書館である。多様性学習や移民の子どもたちの母語・継承語学習に役立てることができるよう、世界中で出版された子ども向け書籍が4,470作品提供されている。フィリピンに関する書籍はすべて1990年代から2000年代初頭に出版された絵本で、表紙から裏表紙まですべてカラーで閲覧することができる。収録数はフィリピン語のものが7、フィリピン語と英語の2言語併記のものが16、計23である。内容はノンフィクションが1、フィクションが22で、フィクションのうち、民話が1、短編集が1、童話が20である。全て6歳以上を対象としており、小学生向けである。

2言語併記のものは、英語が理解できる学習者の場合、フィリピン語の運用能力が初級程度でも負担なく内容を理解することができる。中級以上の学習者の場合には、フィリピン語のみで記載されているものであっても、より低年齢向けのものは容易に理解でき、対象年齢が多少高いものでは、辞書で語彙を調べるなどしながら自力で理解することも可能である。教師が授業で用いるほか、学習者が自習することも可能である。「読む」技能や、語彙・表現・文体といった言語要素のみならず、取り扱われているテーマによって、歴史、社会事情、価値観等も学ぶことができる。

(2) Kapit Bisig

主としてフィリピンの文学に関する情報が提供されているサイトである。関連する情報として、フィリピンの概要や歴史や言語の特徴、日常生活で用いられる基本的語彙や慣用句も簡潔にまとめられている。文学作品は、叙事詩14、古典4、ホセ・リサール（Jose Rizal）の作品6（うち2点は古典と共通）、バラグタサン（Balagtasan）[9]、歌102、詩95、劇1、寓話14、伝説42、民話8、神話6（フィリピンのものが3、海外のものが3）、なぞなぞ38、ことわざ40が収録されている。

古典には内容の要約や登場人物などの説明が、バラグタサンについては古い時代のものと現代のものが紹介されているほか、形式などの説明が付けられている。リサールの作品は作品の分類ごとに掲載され、それぞれ解説が付けられている。歌に関しては、音声は収録されていないが、子守歌13、クリスマスの歌9、流行歌43、民謡31、ホセ・リサール作の歌6の歌詞が掲載されており、種類も数も豊富である。古典、リサールの作品、詩、民話、ことわざは原文のみのものと英語訳が併記されているものとがあり、叙事詩は英語訳のみで、その他はフィリピン語のみで掲載されている。

多数の分野の、文の複雑さや内容の難易度も様々な作品が収録されており、初級から上級の学習者までが広く利用できる。文学作品の形式や文体を学ぶことができるほか、英語による翻訳や解説が付けられているものについては、内容の概要を知ることも可能である。言語面では「読む」技能を向上させ、語彙や構文の知識も増やせると考えられる。

(3) Project Gutenberg

アメリカの著作権の保護期間が満了した文学作品等が収録されている電子書籍のサイトである。各資料はHTML、EPUB、MOBI、UTF-8の形式で提供されている。フィリピンやフィリピン語に関連するものとしては64作品が収録されており、すべて19世紀末から20世紀初頭に出版されたものである。文学形式別では、小説24、詩6、戯曲6、民話（伝説）2、伝記4、歴史書3、辞書3、教育書2、語学書1、医学書や宗教書等の翻訳7、その他6である。その他には、ホセ・リサールの手紙や演説、国の方針演説、地方の暦が含まれる。

古い正書法で記載されているものが多く、現代の正書法で学んでいる学習者には読みづらいと思われるが、複数の作品で正書法が冒頭に明記されているため、判読は可能である。用いられている語彙や表現は幅広く、構文も複雑であるものが多いほか、文学作品では形式が独特であることから、上級以上の学習者向けである。「読む」技能を向上させ、文学作品の形式や文体を学ぶことができるほか、特に歴史書や伝記では、歴史的な出来事や人物の功績、当時の社会の様子を、宗教書や教育書では、当時重視されていた価値観等を知ることができる。

5. 考察と今後の課題

オンラインコンテンツでは、音声や動画、絵や写真を豊富に利用できること、新鮮な情報をタイムリーに知ることができること、該当のサイト外へリンクからすぐアクセスできること、インターネットが利用できる環境であれば場所を問わず学習できることなど、印刷教材にはないメリットがあるということが改めて明らかとなった。効果的に活用すれば、4技能の習得につながり、発音・語彙・表現・文の構造・文体といった言語要素のほか、歴史、社会事情、価値観等も学ぶことができるコンテンツが提供されており、学習者と教授者の双方にとって有益である。その一方、課題があることも明らかとなった。

第一に、情報量が限られているものもあるため、複数のコンテンツを組み合わせる、出版された教材や辞書とともに用いるなど、情報量を補いながら利用する必要があるということである。辞書では対訳のみで例文が示されていない、eラーニング教材では詳しい説明が記載されていないといったものも見受けられた。音声がついていない歌の歌詞を動画サイトで検索して視聴してみるといったように、利用者が工夫することが重要である。

第二に、印刷教材とは異なり、教材全体を見渡すことが難しいため、学習者自身が意識的に体系を捉えることや教授者が適切に導くことが重要であるということである。その教材で既に学習した事項や現在学習している内容は教材全体のどの部分に該当するのか、今後学ぶべき内容は何か、といったことを学習者自身が把握しないまま学習を進めると効果が低くなる恐れがある。

第三に、日本語話者向けの学習コンテンツの充実も必要であるということである。英語による解説や翻訳は役立つものの、日本語話者にとっては、別の言語を介して理解することとなり、意味や理解にズレが生じる恐れがある。また、特にeラーニング教材は英語圏の国で暮らす移民を対象として作成されたものが比較的多い。日本で暮らす日本語話者の学習者にとっては、想定されている対象者の社会的背景が異なると理解しづらい部分もある。日本語話者でフィリピン語を学ぶ学習者の第一言語、知識、経験、環境といったレディネス、および学習ニーズに合わせたコンテンツも必要である。

今回の調査では、ウェブ上で提供されているコンテンツのすべてを網羅できたわけではないため、今後も調査を継続する。さらにeラーニング教材に関しては、より詳細な分析を行いたい。

注

1) eラーニング教材として、「大阪大学世界言語eラーニング――フィリピノ語」と「東京外国語大学言語モジュール――フィリピノ語」があり、前者は主に旅行場面を想定したフィリピン語会話を学べるように作成され、後者は発音、会話、文法、語彙を様々な場面ごとに各モジュールを用いて学べるように作成されている。オンライン辞書としては「タガログ語の小辞書」が日本語で利用でき、日本語での検索も可能である。例文も掲載されているほか、フィリピン語以外のフィ

リピン諸語の語彙も収録されている。

2) 本稿では、構造シラバスを基準にすれば、フィリピン語を初めて学ぶ学習者から行為者焦点動詞のUM動詞やMAG動詞程度を学ぶ学習者までを初級、その他の行為者焦点動詞や非行為者焦点動詞も学び、文法事項の学習を一通り終了した学習者までを中級、文法事項を学習し終えた後、複雑な構文を含む文の読み書きや非日常的な場面における会話等を学ぶ学習者を上級とする。

3) フィリピンのテレビ局であるGMA Network（Global Media Arts Network）やABS-CBN（Alto Broadcasting System and Chronicle Broadcasting Network）、CNN Philippines、有料テレビ放送チャンネルであるCinema OneやJeepney TV、映画制作会社であるTBA Studios等が映画、テレビドラマ、ニュース番組、ドキュメンタリー、料理番組、子ども向け番組などを、オンライン・ニュース・サイトであるRapplerもニュース番組を、動画サイトYouTube上で提供している。

4) YouTube上では多くの童謡やOPMを視聴でき、イラストや歌詞の字幕つきで提供されているものも多い。子ども向け絵本等の読み聞かせサイトも存在する。ABS-CBNではミュージックビデオも提供されている。

5) オンライン・ラジオ局Radio.org.phのサイトでは、フィリピン各地の様々なAM・FMラジオ番組が無料で視聴できる。

6) フィリピンの新聞社であるManila Bulletin、Philippine Daily Inquirer、The Philippine Star、オンライン・ニュース・サイトRappler、テレビ局CNN Philippines等のサイトではニュース報道を読むことができる。

7) フィリピン大学劇団（Dulaang UP）のサイトでは演劇作品の鑑賞が、アヤラ博物館（Ayala Museum）やフィリピン国立博物館（National Museum of the Philippines）のサイトではバーチャル観覧が可能である。

8) maging動詞は「～になる」という意味を持つ動詞である。行為者焦点動詞の1つで、単独で動詞の形態を成すため、他の多くの動詞とは異なり、接辞による分類ができない。

9) バラグタサンとは、掛け合い討論形式の韻文詩であり、詩人フランシスコ・バラグタス（Francisco Balagtas）の功績を記念して1924年に作り出された。

文献

深澤　のぞみ・本田　弘之
2019　『日本語を教えるための教材研究入門』くろしお出版、東京。

河住　有希子
2016　「日本語教材研究の視座――日本語教材研究フレームワーク作成への試案」吉岡英幸・本田弘之編『日本語教材研究の視点――新しい教材研究論の確立をめざして』くろしお出版、東京、48-64。

中村　啓佑・長谷川　富子
1995　『フランス語をどのように教えるか』駿河台出版社、東京。

ウェブサイト（最終閲覧日はすべて2021年10月15日）

depinisyon.com
http://www.depinisyon.com/

Diksiyonaryo
https://diksiyonaryo.ph/list
Filipino Language and Culture, University of Hawai'i at Manoa
https://www.hawaii.edu/filipino/
International Children's Digital Library, University of Maryland
http://www.childrenslibrary.org/
Kapit Bisig, World's Philippine Information Hub
https://www.kapitbisig.com/philippines
Learning Tagalog: Learn Tagalog Grammar Free Online
https://learningtagalog.com/grammar/index.html
Leksyon: Filipino / Tagalog Idiomatic Expression
https://www.leksyon.com/
大阪大学世界言語eラーニング――フィリピノ語
http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/lang/tagalog/lesson01/index.html
Project Gutenberg
https://www.gutenberg.org/
TAGALOG.COM
https://www.tagalog.com/
タガログ語の小辞書
https://sites.google.com/site/wikangpilipino/
Tagalog --- Interactive Language and Filipino Culture Resources, Center for Southeast Asian Studies, Northern Illinois University
http://www.seasite.niu.edu/Tagalog/Tagalog_mainpage.htm
Tagalog Language Seasite, Interactive Learning Resources for Southeast Asian Languages, Literatures and Cultures--- the Center for Southeast Asian Studies at Northern Illinois University
http://seasite2.niu.edu/
東京外国語大学言語モジュール――フィリピノ語
http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/tl/